

炉物理部会セッション

実験炉・研究炉による炉物理研究の将来

Future of reactor physics study on experimental and research reactor

(2) 将来の炉物理研究炉に対する若手の意見

(1) Younger researchers' opinions on research reactor for future reactor physics

*遠藤 知弘¹¹名古屋大学

1. 序論

2021 年 3 月に開催された原子力学会炉物理部会総会において、「もんじゅ」跡地に新たに建設が計画されている試験研究炉(以降、「試験研究炉」と略記)に対して、炉物理研究など推進の観点から必要な装置・設備等に対する要望等を取りまとめるための検討会(以降、「試験研究炉検討 WG」と略記)設置が提案され、その検討会活動が承認された。この検討会活動の一環として、本発表者(遠藤)取りまとめのもと、試験研究炉に対して、次世代の炉物理研究を担う若手からの意見・要望を集約するための活動を実施することとなった。本発表では、試験研究炉に対する若手からの意見・要望集約のために実施した活動の概要および、炉物理部会員を対象として実施したアンケート結果の報告を行う予定である。

2. 事前準備

本検討作業における「若手」の定義として、「40 歳未満の学生、技術者、研究者、教育者」とした。本検討の事前準備として、本発表者がコンタクトとれる範囲に限った若手(産学関係者の 12 名)に声をかけて、「もんじゅ」サイトを活用した新たな試験研究炉に対する事前の意見収集を行った。ブレインストーミングを主目的とするため、(a) positive な期待・意見・要望だけでなく、(b) negative な意見・不安な点についても、併せて意見集約することとした。以上の事前意見を集約しつつ、zoom による遠隔ミーティング機能を活用することで、2021 年 3 月末に若手有志 9 名で議論する場を設けた。議論を通じて、前向きな要望を抽出する為には、「試験研究炉の仕様ありきで議論するのではなく、まずはあるべき姿、すなわち『そもそも炉物理部会の若手研究者が将来望む実験炉・研究炉は何か?』について、若手の間で意見を聴取し直すべき」との意見が出た。

3. 試験研究炉検討 WG 若手検討会

2.で述べた前準備結果も踏まえ、若手委員 6 名を選出し、2021 年 4 月以降に毎月 1 回の頻度で、zoom を用いた遠隔ミーティング形式により検討会を実施した。まず、日本の原子炉物理の将来を担う若い学生・研究者・技術者を主対象として広く意見を収集することができるよう、アンケートの設問項目について議論した。アンケート設問項目の一部は以下のとおり (①試験研究炉の新設が必要か否か、②今後の炉物理研究で解決すべき課題、③今後の炉物理研究/自身の研究にとって必要な「理想的な研究炉/実験施設」、④試験研究炉が新設された場合に実施したい研究開発・必要な設備、など)。また、本若手検討会での議論を通じて、本活動を通じて収集した炉物理分野若手の意見を項目分けし、若手要望を取りまとめる作業を実施した。現時点では「[1] 世界の炉物理実験をリードできるような研究拠点構築」を大きな骨子として、若手要望を取り纏めることを予定している。また、上記以外にも重要と思われた項目として、[2] 規制対応、[3] 情報公開、[4] 技術伝承・人材育成、の観点からも、本活動を通じて収集した若手要望を纏めることとした。

4. Google フォームを利用したアンケート

炉物理部会メーリングリストを通じて、将来を担う若い学生・研究者・技術者を主対象として、Google フォームを利用したアンケートを実施した。2021 年 6 月末まで募集し、若手からの意見として学部生 7 名、大学院生 17 名、エンジニア 5 名、研究者 14 名、教職員 3 名の方々から回答を頂いた。当日の発表では集約したアンケート結果の一部について報告する予定である。

*Tomohiro Endo¹¹Nagoya Univ.